

令和7年度 第3回 学校運営協議会 議事録

【日時・場所】

令和8年2月26日（木）15:00～17:00

中央聴覚支援学校 高等部棟4F会議室

【出席者】

<学校協議会委員>

- ・中瀬 浩一（同志社大学 教授）
- ・良原 恵子（大阪府臨床心理士会 副会長）
- ・前田 浩（大阪ろう難聴就労支援センター 理事長・センター長）
- ・兼田 浩美（本校PTA会長）

1. 開会

2. 校長挨拶

- ◇2月当初の寒さも和らぎ、東門の梅が咲き始めるなど春の訪れを感じる季節となった。
- ◇来週の高等部卒業式、および13日の幼稚部・小学部・中学部卒業式に向け、各学部でお別れ会などの取り組みを行っている。
- ◇本日は今年度の総括と来年度の計画について協議をお願いしたい。

3. 議事

【議題① 令和7年度 学校教育自己診断（報告）】

<概要報告>

- ◇教職員の回収率が大幅に向上（昨年度57%→今年度94%）した一方、保護者の回収率は伸び悩んでおり、今後の関心を高める働きかけやフィードバック方法が課題である。
- ◇生徒の「先生の話の分かりやすさ」は概ね肯定的だが、「学校に行くのが楽しい」という項目は低下傾向にあり、学部ごとの詳細な分析が必要である。
- ◇ICT活用については、児童生徒と教員の認識の差（情報モラルや思考の共有など、高度な活用における課題）を分析し、指導に活かしていく。

<学校運営協議会委員からの意見>

- ◇分母（児童生徒数）が小さいため、1人の回答が%に大きく影響する。統計的な信頼性の観点から、学部ごとの実態や教員の経験年数などを踏まえた、より丁寧な分析と報告を求める。
- ◇保護者の回答率向上には、紙ベースではなくQRコード等を活用した簡易な回答方式への移行や、懇談会等の機会を捉えた実施が有効ではないか。
- ◇「いじめ」や「相談体制」に関する評価の伸び悩みに対し、単なる面談だけでなく、専門家による「助けてと言える力（援助希求能力）」を育む心理教育を、予防的観点から集団へアプローチしてはどうか。

【議題② 令和7年度 学校経営計画（最終報告）】

<研究活動の総括>

- ◇今年度は「わかった・しりたい・伝えたい」をテーマに、各部で主体的・対話的な学びに取り組んだ。
- ◇幼稚部の「言葉を豊かにするビデオ分析」、小学部の「言語発達指標に基づいた指導」、中・高等部の「セルフアドボカシー（自分の取説作り）」などの成果を共有した。

<学校運営協議会委員からの意見>

- ◇他校では盛んに行われている「授業研究」のフレーズが計画に見当たらない。教員の根幹は授業であり、互いの授業をオープンにして磨き合う文化を創るべきだ。特に聾教育特有の専門性（日本語獲得や文化の理解）を継承する仕組みが必要である。
- ◇手話のできる教員の継続性や、子どもたちの障害実態（聞こえの度合いや重複障害）に応じたきめ細かな回答・指導が行われているか注視してほしい。

【議題③ 令和8年度 学校経営計画（案）】

〈主な変更点〉

- ◇働き方改革の明文化：年間時間外勤務 720 時間を超える教職員をゼロとする目標を設定。職員会議の書面化や、中学部での 45 分授業導入による放課後の時間確保などを試行する。
- ◇中期目標の継続：ICT 活用や国際交流、専門性の向上を引き続き推進する。

<学校運営協議会委員からの意見>

- ◇残業時間の平均は低いですが、突出して高い教員がいる実態がある。業務分担の偏りを是正し、教員が授業に向き合える時間を確保してほしい。
- ◇AI の活用は避けて通れないが、安易に頼るのではなく、自ら文章を書く基礎能力の育成と、AI を使いこなす力のバランスを教育の中で議論してほしい。

【議題④ 卒業後の進路状況（追加報告）】

- ◇今年度卒業生（5名）の状況：大学進学1名（看護・助産希望）、就職4名（大手スーパー、製薬特例子会社、福祉施設、二輪車メーカー工場）。

前田委員…進路は教育の出口であり、次回以降は早い段階で詳細な報告を行うよう要望があった。

4. 事務局より連絡

- ◇次年度使用教科書の選定結果について。◇令和8年度の主な行事予定および学校運営協議会（全3回）の日程案提示。

5. 閉会（校長より）

- ◇意見書への対応報告：特定の授業における不適切発言等をきっかけに、当該教員2名を授業から外し、現在は職員室勤務および研修を課している。生徒の安心を最優先に、今後も丁寧な寄り添いを続ける。
- ◇委員の任期満了に伴い、次年度も引き続き継続して協力いただけるようお願いしたい。